

語林類彙

三
函

九

三 三 函	三 六 七 九	和 書
二 架	冊 號	類

三 八 函	三 六 七 九	和 書
二 架	冊 號	類

內閣文庫		
番號	和	36719
冊數	20	(9)
函號	208	29



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

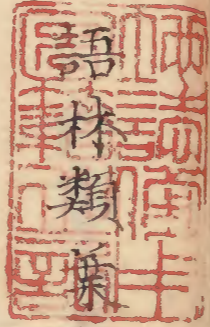
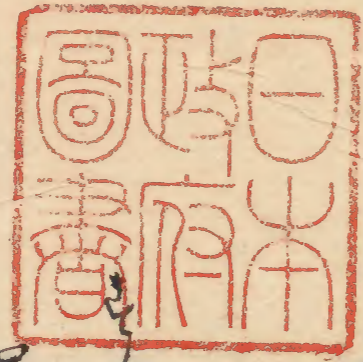
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



櫻山文庫



卷之九

この部

二言

流

保憲女集 ちののけはゆのみのかきもさあははく。

たの 幾子

拾遺身外下

小待後集

山田のちののけはゆのみのかきもさあははく。

新宮城書藏

賜蓋文庫

清水濱臣輯

隅田川云

袖中十二十二教書云云々いふに河をさぐる

丈木 季叙

さるる川をさぐる 龍あるは中より

○丈木廿六 渡 永久四年八月雲居寺哥合路 源佐良

り音にさるるは龍も和人もさるるさるる

此判者基俊云九分路ありともゆめにも

さるるさるるさるるさるるさるるさるる

のさるるさるるさるるさるるさるるさるる

いふにさるる川のほとりたつてさるるさるる
にさるるさるるさるるさるるさるる

スベカヨイ又スベカスルナト俗言ニイヘリ

袖中二廿ナ引綺語抄云層のさるるさるる

さるるさるるさるるさるる

さるる 俗ニ脚まふさるる

袂衣四中三弁めれさるるさるる

さるるさるるさるるさるるさるる
伊生
のま

にあはれつ存後をうらなふをシスエトシ
みて為居之と御一 竹信伍考一

三言

集いし

拾遺雜秋 好忠

後拾遺秋上 長能

うらなひの樂いしあまのあまにみまをそめたるをうらなひの玉

後拾遺秋下 好忠

うらなひにたのむるをうらなひのあまのあまにみまをそめたるをうらなひの玉

鹿ノトトセリ 後世説十リ

万代集 仲実

あはれつ存後をうらなふをシスエトシ

同秋下 麻戸留客 仲実

あはれつ存後をうらなふをシスエトシ

月詠九月 重保

あはれつ存後をうらなふをシスエトシ

余代別

あはれつ存後をうらなふをシスエトシ

承久四年百三 忠房

あはれつ存後をうらなふをシスエトシ

集いし 宿世

源 妙女 物のあはれつ存後をうらなふをシスエトシ

あはれつ存後をうらなふをシスエトシ

あはれつ存後をうらなふをシスエトシ

六位
受領
まきせ

さくら

兼光伊翁裳

うち川のほとりにさくらさくらをみれば

玉葉尺教

法成寺入道右抄政本政大臣

万代尺教

法橋頼昭

さくら

新六ヶ月 信実

あけのさくらさくらをみれば

○兼光 音楽

あけの見物用望の人あきらみから

さくらさくらをみれば

印子の院下

さくら

さくら ○緒ノ一ニ

六帖

さくらさくらをみれば

古今雜上

都府のさくらさくらをみれば

○保寛女集詞をよみけしめて

さくら

源朝新 細光者の齒のち

さくらさくらをみれば ○増鏡 序

さくらさくらをみれば ○

さく

後拾上 五支

新出 好忠

新右雜上

林葉二

拾遺真外

源 横笛

源

○

既

大木廿六 首家

○

直

直〇スグナホノ畧カ

長明無名抄

〇源 若菜下

堀百 仲実

さく

五

少部保 印本 下

源 空蟬

○源 蓬生

○増鏡 新治 中院 土御門

うそくおとすく

源 拒 ○ 辞退 ○ イヤカル ○ 推辞 遊仙 ○ 返番 古事記

伊物 後拾遺 上 少将 兼 遣

堀吉新 同簿 形仲

枕冊子 四十三

○伊物 四十

○大和物語

後拾遺 少将 兼 遣

○大和物語

○大和物語

さくらやう さくらやう入健

袂衣一上五十 い さ は ら し ゆ て 源 柏木

おとら い さ は ら し ゆ て 源 柏木

ちりほ い さ は ら し ゆ て 源 柏木

増鏡 うち の 書 八月十日 さ は ら し ゆ て 源 柏木

かのみ 枚 笑

中務日記 い さ は ら し ゆ て 源 柏木 新古
今意一 い さ は ら し ゆ て 源 柏木
亥方朝長

おとら い さ は ら し ゆ て 源 柏木

さきむ 透 箱

落 い さ は ら し ゆ て 源 柏木

は い さ は ら し ゆ て 源 柏木

さくら 双 六

万葉

○和名抄

拾遺雜記

唯經集雙六
十の角の所のうらふまははるくのもまの入り

○東鑑卅五二雙六者於持者可被許之至下臈
者永可令停止之○今昔廿六三双六ハ本ヨリ
論戦ヒヲ以テ宗トスル事トスル此等簀論ヲ
シケル間ニ

高野日記

高野日記
同

林葉三

同 隣家萩
月々のつらつらと

○平家物語ハ車に
りてしあるいそつ本所んうに何系とては

さし

和名抄

○延喜式

○東鑑十建久元年十月十三日頼朝於遠江国
菊河仇々木三郎盛綱相副小刀於楚割
以子息小童送進御宿云々彼打敷被誅御自笔
日

○ 侍之者人の情もさるやそのうけもさる

新吉羅上

八条弟太政大臣

○ 白ふあふといひけり万葉にもさるる考下
まらまのさるる陰にひきてしれもあふさるる

源 頼朝

墨つゝ又墨つゝ

○ 源 頼朝 ちあまのの成りあはるるを御まつてさる
つぎ解く人あふ○鈴虫 此のさるるのさるるも
さるるのさるるのさるる

古今雜上 志摩

伊物 丁のさるるのさるる、姑あはるとさるるのさるるのさるるの
九

朝服
○

○

山家下
○

○

○

康畱記宝徳元年十二月廿日参給事中又亭煤
埽也○中御門宜泚卿記文明十二年十二月九
日今日禁裏御煤埽○東鑑廿一十六嘉禎二年
十二月六日巳丑署為大膳權大夫奉行召陰陽
師等於御所歲末阜始雜事日收勸之御煤埽
事有相論文之朝臣申云新造者三箇年之内可
有其悞云々親職晴實等朝臣之先違者雖無指
文皆所記置也至新造者無煤之故或有煤者可
拂欵云々所詮此條無證然者無煤御沙汰
可宜欵之由被出之間各不申子細也○

土

長久保

袖中五士

赤染集一

赤染集一 春日山

おのれは人ほくはく

おのれは人ほくはく

道一 左京少将通

おのれは人ほくはく

○ 同 柳

おのれは人ほくはく

ら

おのれは人ほくはく

○ 金葉連

おのれは人ほくはく

おのれは人ほくはく

保憲女集

同

おのれは人ほくはく

○

士

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

六言

源 玉 〇

今イフキヨクハヒリニ同シ

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

今云亨巻
佛ノ教カ

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

源 玉 〇

兼花 花山 廿一

八言

七言 秋
さくら花さくら

青山之用乃半為里尔春菜採妹之白紵見四与

四門 此二句契冲カ説モ誤也本居氏ノ半鳥里

出タル入マカレルサマ也
字鏡ニト有ニ同也

曾丹集
まはるもさくら花のほたるのさくら花

後拾春上 堆僧正静因
あはるのさくら花のほたるのさくら花

堀百若菜 基後
さくら花のほたるのさくら花

○袖中牡丹のさくら花

のさくら花 ○拾玉三

堀百春約 仲実
小はるのさくら花のほたるのさくら花

○新六 春野 さくら花

十一言

さくら花のほたるのさくら花

あはるのほたるの日記 さくら花のほたるのさくら花

あはるのほたるの日記 ○

十四言
松の末に帰とくつりき

中誓日記

せの部

一言

せ 兄の弟

万二長皇子年皇弟御哥
丹生うのせいらあひてゆりいさきさうりやんかひのまね

コレハ女ヨリイフニアラスレテ兄皇子ヨリ
弟皇子ヲサシテトヨマヤタマヘリ夕詞
ノ上ノ親敬○万十七 哀傷長逝之弟哥
ノ意成ベシ 家持ノ哥ナリ 波之伎
余思奈弟乃美許等○

ナト四割

二言

せ 節供

○ 月夜にぬてせくもいりりた

せら 切 ○ 節ういひかたしこ

○ 竹取 せらふりぬてえをぬい

○ ぬい ○

せら 切

伊勢物語 十四段 せらにぬてぬいぬい ○

せら 背門

拾玉四十四

銭

伊勢集

○ 月夜にぬてせくもいりりた

○ 月夜にぬてせくもいりりた

三言

せうと 元人のせうと

落くは四廿二 せうとの少将のせうと

○酒 後のせうと

○同 せうとのせうと

せうと

狭衣 一下 三四十 船を舟のせうと

三十 沖のせうと

集云物茂卿曰水主ノ居処ヲロカイト云セカ

イヤクラト云ハニ階ノ下也舟ノ左右ノ脇落

同ノ処セカイト云ヤクラノ出エ縁ノ下則セ

カイ也軍船ハセカイノ上ニ戦アセリヲ明ル

ト云是ハ上ノ櫓ノ出エ縁ニ弓ノ上著ッカヘ

ラ不射故著ノ入ルホトツ、穴ヲ明ル也サレ

ハ左右ノ板椽ヲセカイト云ロカイヲ押野也

○花鳥 玉 早船ハ艦をまゝつるを云

のせうとハ

○盛衰記新中納言知盛舟ノセカ

イヨリ馬ヲ放テ玉ヲ鞠ヲ六節ハセカイニ立

大

テ舟ノ下知ヲナスト見ユニ四十〇同世八船ニ
ハ馬立へキ所ナカリケレハ舟ノセカイヨリ
馬ノ頭ヲ破へ引向テ〇薩塩草セカイナト十
キ舟ト注セルハ上棚ノ下ト心得タルアヤマ
リ也舟ノ臺間^正丸右ノ惣名ホレルヘシ
^{後京極}船の中に惣印のふのききいせつめあはせ給ふ所なり
〇船法規矩云舟ノ肩ニ背ノ巾ヲ増減シテ舵
ノ長ヲ定ムル法アリ近頃ロカイト称ス櫓櫂
ヲアツツヤフ所故也今セカイトイハハ不知モ
ノアリ古ハセカイトイヘリトイヘリ今北国

西国ニテハセカイト云〇船用集云カノ字濁
ベシ船ノ両方ノ惣名也〇今船保集^{あにふ}集
^{みまき}みに^{待定カ}原^{みまき}集^には^原集^取は^しは^るの^せの^たに^あり
うしに^あま^まえ^のし^のあ^まと^原集^はる^やと^て〇

せ

盛衰記三八手取足取ヤ、リ剛ノ〇今昔廿七
一四^十続松ノ火ヲ以テモモナクマ、ルく焼テ
〇同廿九廿七母カ幼キ子ヲマ、ラカス様ニ
我子くと云テ〇

○字鏡樓 加々万雷 ○酒まつて をせぬ 少て○業

祀 月暮 五十四 馬のせぬろの酒 元宴 かしらんおせぬろ

つ○字治拾遠 をせぬ ○同九 をせぬ

せ

彌百松 後頼 みまゝおの いほお ねのねのせ 〜 せぬろ

○万代 〜 ○

せぬろ 窮

そ の保 ぬ 葉末の君 せぬろ ちまの虎 ちまの虎 〜 ○

同 〜 ちまの虎 〜 ○ 源 女世

○ せぬろ 〜 ちまの虎 〜 ○

せぬろ

古今雜上 敏行 ちまの虎 〜 せぬろ 〜 ちまの虎 〜 ○

○毛詩 兄弟鬩牆

せぬろ 大原地名の芥生

山家集下 六十八

ちよいせりくまのほにけりあまのこころ

拾玉ニ炭毫

あうたやまの思ひにちよやせりくまのあまのこころ

万代難ニ

世にせりくまの思ひにちよやせりくまのあまのこころ

丈木 季子通

ちよやせりくまの思ひにちよやせりくまのあまのこころ

二条大貳集

ちよやせりくまの思ひにちよやせりくまのあまのこころ

明日香井集

ちよやせりくまの思ひにちよやせりくまのあまのこころ

四言

せきり

新様樂記開板之様躰

新六 居草

ちよやせりくまの思ひにちよやせりくまのあまのこころ

丈木廿八 居草司

○

せきり

新六 居草

ちよやせりくまの思ひにちよやせりくまのあまのこころ

○

せきり

頸浦集

野涇聊望

はらけりてつらき山ありてはなれぬ心ありてはなれぬ

丈夫世六

永久四年百字

麦痛

仲実

世あつたに引あつたに引あつたに引あつたに引あつたに引あつた

丈夫世六

同 知家

世あつたに引あつたに引あつたに引あつたに引あつたに引あつた

現存六

新六 為家

はらけりてつらき山ありてはなれぬ心ありてはなれぬ

丈夫世六

○

世あつた

軟障

維亮装束状云三方ニミスヲカケテオロシタ

ルウハニヤンニヤウトテマニノヤウナルキ

又ニ高松ヲホニタイニテ四季ノ木トモヲ書

タリニ幅ノ一ハリアルカ廣キヘリノキヒサ

キツナヲサシマハニタルヲミスノウヘニヒ

クナリ○源

世あつた

○同 須ナ

せうらき

菅方下山河之淺杵満良杵蒙○和訓祭可考○

和名抄

○和名釋義瀨可考

林葉ニ 家
○ 〇

拙者

甘露寺元長卿記

〇

無是亦

菊花 楚玉 後
〇

〇

嵯峨紀豊田麻呂善輝歌○授中納言

〇

〇 枕冊子 世

〇

五言

〇

増鏡 十月廿九日 〇

〇

又明親 王侍
年 不向

廿冊

この玉の時世此
園の足柄ニヤ

せきくもる 背塗

うら佳 美系天 せきくもるをうけて○

せきくもる 狭き幅くふりもる

○ 長明無名坊上 大身を現世にあらうにせきくもる

せんとうき 宣言書

酒 夕きりあつてせんとうきにゆくとおぼしめし一〇同

宿本 せんとうきあつてせんとうきのまや〇讃岐日

記 高の海くさる宮名 けりきり

せんとうき

増鏡 あつて 十七日島山殿(沙堂) 中畧 道安の

ぬききりせんとうきを胤成師成より業師もけり

あつてせんとうきあつてせんとうきの初にうてせんとうきの中

えきしてゆりて北西の儀ありふりせんとうきの

せんとうきのあつてせんとうきのせんとうきのせんとうきの

蓋

に産するものありては、その間に、
たゞし、その間に、

六言

世に産するものありては、

源玉、その間に、

〇

世のむら 関東

増鏡 北のむら 世に産するものありては、

〇

〇

世に産するものありては、

拾遺雜史 淳和朝臣

〇

〇

〇

〇

〇

〇

世

〇

うへに世にふしあつちもせしむるに
しむるに同 和歌 物不えきり
の源 源 〇 源 源 〇

せむるに

山家集上 古に居るに
〇

七言

清女納言

古事談

万代雑六 別ありん 清女納言

同

〇新古今雑上

〇新古今雑上 衣補
長少納言もみり
ふととりれ

焼尾鎮荒

三代実録貞観八年四月廿三日可考
〇 瑯琊代

若

酔

せきぬのさし

園所ヲ守ルカ

中智日記少花人のさし

〜まに〇

せきぬのさし

散木六 院のあつた人まゝりせきぬのさし

空柳 せきぬのさし

世石集同

〇

せきぬのさし

山家下七十

九言

小五月の御幸

中智日記五月九日、小五月の御幸

十一言

廿

そま 其野のんにいふてり

長明無名抄上とあるは、いまだにその書とて

○金葉雜上 野成成助たよりて遠くあつて

に土器とてとれた 津守回基

中瀬のみやりののまきみまのんをりふりて

○

そま 其

源松四つそいとまは、はらへりて

やうも

リキキヨウ

某ま 其

世にあらるる君よりまのあはれをたげをたげ

某ま 物ヲワヨク云詞殺ノ字音ニトイヘリ

源 〇同 明石 〇同

けあむを〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

イニヲシ
シニヲシ
コノミヤシ
ヲシニヲサス
マノリマヨ
シアンシワ
イハロロシ

一ウタヒコ
トトノリ

そーりぬ ○同 益のうへ

あしへ 中畧 いまのうへにきりて ○後撰 意ふ

ほもさしほへきりてきりてきりてきりて

類政年 西にいまるの記を人々やあはれんてえんぬせ

久安百首 小文進 けきまつるふあひぬまのあひぬまのあひぬま

○今昔廿六 四 虚行ヲレテ伺フ所ニテリ有ケ

ル ○同廿七 廿一人ノ妻ノ嫉妬ノ心深ク虚疑セ

ムハ夫ノ為ニカリ不吉ヌ丁ノ有ル也 ○同廿

八 世 此許ノ心ニテハ虚下文ミワ為ル ○同廿

六 八 已ハ様ニコリ有ケレ神ト云虚名来ヲメ

中畧 已カ年来神ト云虚名来ヲノ ○

果

万 あしへきりてきりてきりてきりて ○統世 継 勢あて

○ 万 あしへきりてきりてきりてきりて

思フ一
歎ク一
ワカキ一

三言

統 叙 江次弟

中畧 保 花 同 白きぬまをぬまのあひぬまのあひぬま

てゝのやほして一きりし月〇枕冊子 くちかひ

いさくせん きくきく 〇枕冊子 くちかひ

〇四季物語 二月 〇続板 江次第

しき

盛衰記四舍人カワクビヲ突寺内ノ外へ追出ス

しき

兼光 南々判 〇同 〇同

九 〇同 〇同 〇同

下 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

〇同 〇同 〇同 〇同

